

立命館大学環太平洋文明研究センター第4回研究会

2014年5月29日(木)18:15-19:30

立命館大学衣笠キャンパス学而館2F 研究会室2

秋田県一の目潟年縞堆積物を用いた 東北日本の環境史復元

篠塚良嗣（立命館大学専門研究員：地球環境学）

日本海にほど近い標高100mの場所に一ノ目潟は存在しています。直径600m、最大水深45m、湖への流入河川がなく、急な斜面に囲まれた非常に特殊な湖です。この一ノ目潟の湖底には、木の年輪のような土の年輪『年縞』(明暗を1セットとした1年間分の堆積物)が湖底から約60m(およそ6万年間程)にわたり堆積しています。この一ノ目潟で行ったボーリング調査の概要と、現在私たちが行っている現世の地震との関連やマイクロテフラの検出などの研究について紹介します。

立命館大学環太平洋文明研究センターは昨年4月に新設された新しい研究組織です。「環境と文明のあり方を根本から問い直し、環太平洋地域の災害と文明の興亡を解明する」のが目的です。人類学、環境考古学、地理学、考古学などの研究者からなる研究組織です。

定例研究会には、学生、院生、教職員、どなたでもご自由に参加できます。今後、各分野の研究者が持ち回りで発表します。どうぞふるってご参加ください。

お問い合わせ先：矢野健一（文学部：kyl21175@lt.ritsumei.ac.jp）

立命館大学環太平洋研究センターHP：
<http://www.ritsumei.ac.jp/research/rcppc/>



年縞(ねんこう) (左：グラビティコア，
右：ボーリングコア)：「土の年輪」 四季の変化によって堆積物に含まれる珪藻・有機物・碎屑物などの量比が変化することで、縞模様がつくられます。